

自己評価結果公表シート (2022年度)

学校法人 三宅学園 ふなお幼稚園

1. 本園の教育目標

家庭的な雰囲気とゆったりとした環境のなかで、キリスト教の愛と奉仕の精神を基として、①自分から挨拶する子ども、②呼ばれたら「ハイ」と返事が出来る子ども、③行儀の良い子ども、④思いやりのある子ども、⑤創造性・感受性豊かな子ども、に育てる。そのために職員一人ひとりが⑥子どものお手本であることを常に意識しながら、言葉遣いや立ち居振る舞いに気をつけて保育に取り組む。また 子ども・保護者・職員が共に育ち合う関係を築けるよう、連携を密にしながら日々の教育保育に取り組む。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

子どもの心身の健やかな成長のために、前年度の反省を生かしながら以下について取り組む

【指導計画の見直し・改善】

- ・新型コロナウイルス感染対策をしながら、過去の経験を活かして、子どもも保護者も安心して取り組める教育保育を実践していく。
- ・4・5歳児のワーク（数と書きの練習帳）は、書き順を丁寧に指導する。
- ・夏のプール指導（4・5歳児）をEスイミングスクールに依頼する。子どもがもっと水に親しめるように昨年度より指導回数を増やす。
- ・今までの体操指導は笛による号令で行っていたが、より楽しい雰囲気の中でリズムに乗って身体を動かせるように、音楽（ピアノ伴奏）に合わせて行ってみる。
- ・園庭のポタジェや園外の貸し農園（浜寺元町農園）で、子どもと一緒に季節に応じた野菜を栽培・収穫し、自然の不思議さに目をみはる感性を育むと共に、食への関心を深める。

【職員の共通理解と業務効率の向上】

- ・昨年同様、ノンコンタクトタイムとしての月一回の土曜会議で、次月以降の保育や行事について話し合い、共通理解を深めるとともに、園の教育保育方針を再確認している。
- ・読み聞かせをする絵本は、季節に合ったものを各組の担任が個々で選んでいたが、ベテランの先生が事前にまとめて選んでおく。

【家庭との連携】

- ・保護者交流会を開催して保護者同士の親睦を深めると共に、園の教育保育方針を伝える。
- ・保護者の『保育参加』を今年度も継続実施する。
- ・園のLINEに保護者全員に登録してもらったので、動画や静止画を有効に使いながら、家庭との情報交換に活用していく。

【安全管理】

- ・教育保育環境の安全性の向上を図る。
- ・今までどおり避難訓練を毎月実施するとともに、いつ起こるかわからない地震や津波等の災害に備え、避難所への避難訓練を実施する。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
【指導計画の見直し・改善】	<ul style="list-style-type: none"> • 春の園外保育（天王寺動物園行）は、電車で行く予定にしていたので、密を避けられないなど感染防止の観点から中止したが、6月のお花摘みは徒歩で行くので感染のリスクが低いと判断し実施した。またプラネタリウム見学は例年電車を乗り継いで行っていたが、今年度はマイクロバスを借り（園長運転）で行くことにした。 • 毎月実施のお誕生会では感染防止のために、歌は先生だけが歌い、子どもはハミングで歌うことにしていたが、強力なサーキュレーターを購入して換気をすると CO2 センサーの値が 1000ppm 以下を保てることがわかってきたので、3 学期からは子どもも歌うことにした。 • 4・5 歳児のワーク（数と書きの練習帳）は、全員での一斉指導をやめて、8 名程度のグループで 3 回に分けて指導した。 • プール指導は昨年同様、年中組と年長組が 6 月から計 8 回（昨年度は 3 回）、E スイミングスクールに指導してもらうことができた。 • 体操がしやすい曲を選んでピアノ伴奏をしながら体操をすると、自分からリズムに合わせてしてみようという気持ちになり、より楽しい雰囲気活動できるようになっている。 • 貸農園では前年の 11 月にタネを蒔いて育てたエンドウやオオムギを、5 月に収穫することができた。エンドウは収穫した日に園児全員に分けて持ち帰らせた。大麦は保護者ボランティアと一緒に刈り取り、園で乾燥・脱穀した後、2 学期の終業日に持ち帰らせた。脱穀したあとの麦わらは、5 月後半に年長組がサツマイモの苗を植えた際にマルチとして利用した。サツマイモは 10 月に園児全員でお芋ほりをして収穫した。その後 11 月から大麦（年長組が種蒔きと麦踏み）とエンドウ（年中組が苗植え）を栽培している。

<p>【職員の共通理解と業務効率の向上】</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 月一回の土曜会議では、予定や指導方針を話し合うとともに、職員同士の親睦を深め、保育方針の共通理解を図っている。 • 読み聞かせの絵本を土曜会議の際にベテランの先生が季節に合った絵本をまとめて選んでおくことで、担任が絵本を探す時間の短縮につながっている。
<p>【家庭との連携】</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 5月に浜寺公園で保護者交流会を開催し、子どもを通じて保護者同士の親睦を深める良い機会となった。屋外なので大勢が集まっても密になることはなく、園の方針を直に伝えることが出来た。 • 保護者の保育参加は、就労している保護者も参加しやすいように、LINE で申し込む予約制とし、マチコミ（アプリ）のカレンダー機能を活用して、空き曜日がわかるようにしている。 • 昨年同様、2学期終業時に園で乾燥保存していたポップコーン用のトウモロコシと麦茶用のオオムギを、レシピをつけて全員に配布した。それと一緒に干し柿（卒園児保護者より頂いた柿を園で干したもの）も配布し、日頃の教育保育方針への協力に対する感謝の気持ちと、分かち合いの精神を伝えた。
<p>【安全管理】</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 防災指導計画に従って、交通安全教室や月一回の避難訓練を実施し、子どもの安全意識の向上に努めている。 • 日頃から園内の安全点検をして、子どもがケガをしないように安全対策（学期ごとに、クラスでオリエンテーション実施・・・安全な遊び方や遊具の使い方説明、危険があれば即排除、ケガをした際の記録・伝達・原因究明・再発防止策など）を講じている。 • 鉄棒や雲梯の下、登り棒の下、築山トンネル出口周辺など、子どもが遊んでいる際に謝って落下しそうな箇所にゴムチップ舗装を施工した。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- 新型コロナウイルスの園内における感染がほぼ無かったことから、コロナ禍前の園外保育を再開していった。但し、三密になる可能性がある活動は、感染状況を見ながら実施の可否を判断したり、保護者への毎日の検温や健康観察などの協力要請をしたりした。
- 昨年同様ほとんどの園児はマスクを着用しないで園生活を送っているが、感染は起きていない。また各室にサーキュレーターを新たに設置して以前よりも保育室の換気が出来るようになったので、安心して歌を歌えるようになった。但し、給食については職員と子どもは別の場所（職員は職員室）で食べるようにしている。
- 4・5歳児のワーク（数と書きの練習帳）は、グループに分けて指導したところ、より丁寧に見ることができたが、トータル時間が長くなるので先生の負担軽減を考える必要がある。
- 夏のプール指導は年中組と年長組が6月から計8回（昨年度は3回）指導してもらうことができ、全体的に水慣れや泳力向上につながった。
- ピアノ伴奏をしながら体操することによって、ピアノのリズムに合わせて身体を動かすなど、楽しい雰囲気の中で活動することができた。
- 貸農園で収穫したオオムギを脱穀・焙煎し麦茶にして味わうことや、サツマイモやトウモロコシ、豆類を、種まきや植え付け、水やり、収穫、食べるまでの体験を通して、自然の不思議さや自然の恵みを直に感じる事が出来た。引き続き、農園でエンドウ豆とオオムギを栽培し、1月には年長組が『麦踏み』を体験した。エンドウ豆は4月に、オオムギは5月にそれぞれ収穫する予定。また園内ではソラマメを栽培し、5月に収穫し焼いて食べる予定。
- 月一回の土曜会議では、次月のカリキュラム内容や指導方針、行事について話し合ったり、それらの準備をみんなでしたりすることによって、共通理解の向上や親睦を深めることができています。
- 5月に浜寺公園で開催した保護者交流会では、子どもを通じて保護者同士の親睦を深める良い機会となった。また保護者会総会も同時に開催し、保護者へ直に保育方針を説明することができた。
- 2年前から実施している保護者の『保育参加』では、我が子の園での様子やお友だちとの関わりを実際に見ることを通して、教育保育方針への理解や園との信頼関係の強化に役立っている。
- 安全管理面では、避難訓練の毎月実施や毎学期のオリエンテーションや安全点検の実施、ゴムチップ舗装等の安全対策をすることによって、保育中の事故防止に努めたが、ゴムチップ舗装が思った以上に硬く、雲梯から落下して腕を骨折する事故が起きてしまった。
- コロナ禍前に実施していた春の遠足（天王寺動物園行）には行けなかったが、3学期に年長組だけで電車に乗って行くことができ、年長組の子どもたちにとっても先生にとっても感慨深い遠足となった。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
【指導計画】	<ul style="list-style-type: none"> • 新型コロナウイルスの感染対策をしながら、コロナ禍前の行事を復活したり、新たに取り入れた行事を継続したり、子どもにとってより良いと思われる教育保育を見極め、計画を見直していく。 • 運動会の会場として借りていた浜寺小学校が、校舎建て替え工事で借りられなくなるので、次年度の運動会をどこで開催するのか？早急に情報収集したうえで会場を確保する必要がある。 • 4・5 歳児のワーク（数と書きの練習帳）は先生の負担軽減のため、増員できるように活動スケジュールと補助に入る先生の配置を見直す。 • プール指導はスイミングスクールと連携を取りながら、引き続き指導をお願いする。 • 体操指導は、環境設定や補助の仕方など職員一人ひとりの指導技術の向上に努める。 • 引き続き、園内外で子どもたちと一緒に季節の野菜やお花の栽培をしながら、自然への興味関心や食べることへの意欲を深めていく。
【職員の共通理解と業務効率の向上】	<ul style="list-style-type: none"> • 土曜会議をより効率よく実施するために役割分担を明確にするなど、会議内容を見直していく。 • 引き続き園児管理ソフトの効率的な使い方を習得して、事務負担の軽減に努める。 • 職員一人ひとりの役割を明確にし、やりがいと責任を持って仕事ができるように、園長や主任は積極的にコミュニケーションを図っていく。
【家庭との連携】	<ul style="list-style-type: none"> • 春開催の保護者交流会では、保護者同士の親睦を深める良い機会になり、同時開催した保護者会総会では直に保育方針を説明できたので、内容を見直しながら継続して実施していく。 • 保護者全員と園のLINE が繋がったので、連絡や情報共有が迅速に行えるようになったが、ネガティブな事項は相互理解にズレが生じる可能性があるため、原則、直接会って伝えるようにする。 • 保育方針や行事内容などアンケート調査をして、保護者の理解や思いを把握し、次年度の計画策定や説明内容の見直しをしていきたい。

<p>【安全管理】</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 毎月実施している避難訓練は、年長組が慣れてきてふざけることがあったので、子どもが怖がらないレベルで、より緊張感を持って取り組めるような内容を考えていく。 • 雲梯での事故を反省し、ゴムチップ舗装があっても落下する可能性がある場面では、必ずマットを敷くことにしたが、雨上がりなど地面が濡れている時はマットが敷けないので、マットが敷いていない時は使用禁止にするなど、安全対策が必要。 • 耐震工事の際に園舎の大規模修繕をしたが、10年以上経過しているため、日頃から建物や遊具の安全点検をして、破損しそうな箇所があれば、早急に修理をして事故防止に努める。
---------------	--

6. 学校関係者の評価

<ul style="list-style-type: none"> • 職員が真摯に自己点検・評価に取り組んでいる様子が伺える。コロナ禍においても感染対策をしながら、園と保護者が協力し合って、運動会や園外保育、サンマパーティー、クリスマス、おもちつき、ひなまつり（祖父母参観）など、徐々にコロナ禍前の行事が復活していったことを嬉しく思う。 • コロナ禍で保護者同士の交流が激減し、お互いに顔と名前が一致しない保護者もいるので、またみんなで集まれる機会を増やして欲しい。 • 今後も家庭との連携・情報交換を密にし、子どもたちが安心安全で楽しいと思えるような教育保育、創造性・感受性を豊かにし、思いやりのある人に育てる教育保育を続けてください。
--

7. 財務状況

<p>公認会計士による監査では、適正に運営されていると認められている。</p>
